

青森県階上岳のコメツキムシの分布について¹⁾

大平 仁夫²⁾・山内 智³⁾

Some distributional records on the elaterid-beetles from Mt.
Hashikami-dake in Aomori Prefecture, Honshu, Japan

Hitoo ÔHIRA and Satoshi YAMAUCHI

Key words : 青森県, 階上岳, 昆虫類, コメツキムシ科

はじめに

青森県立郷土館では調査研究事業として、2005年から5ヶ年計画で青森県と岩手県が隣接する通称「三八地方」の自然誌解明を目的に自然調査を行っている。

階上町階上岳(標高740m)は、青森県と岩手県との県境に位置し、北上山地の北端に位置する(Fig. 1)。周辺には高山が無く山頂はなだらかで、その山容から別名「臥牛山」とも呼ばれている。この山は花崗岩からなり隆起活動によってできた山体である。植生は山頂部はミズナラ、コナラ、シラカンバなどの広葉樹林で、多くのヤマツツジの群落が見られる。裾野はスギやアカマツなどの植林地が点在し、中腹には牛・羊の放牧場もある自然環境からも興味深い地域である。

本地域のコメツキムシについての記録はほとんどなく、まとまった調査は今回が初めてである。

今回の調査にあたり、青森県自然保護課、階上町教育委員会を始めとする関係機関からは貴重な助言や指導をいただいた。厚くお礼を申し上げる。

ここに記録された資料の採集者はすべて山内本人であるので、本文中の採集記録の採集者名は省略した。なお、ここに記録した資料は、青森県立郷土館に保管される。

種の目録

1. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus*

(Motschulsky, 1861) サビキコリ

調査標本: 1♂4♀♀, 29-VI-2008; 5♂♂5♀♀, 9-VII-2008; 3♂♂, 20-VII-2008.

幼虫は土壤中に生息し、北海道から九州にかけての各地の山林や畑地や牧草地に広く分布する種である。ここでは多くの個体が見出された。

2. *Agrypnus (Agrypnus) cordicollis* (Candèze, 1865)

ムナビロサビキコリ

調査標本: 1♂3♀♀, 29-VI-2008; 2♂♂4♀♀, 9-VII-2008.

前種と同様に幼虫は土壤中に生息するが、より山林性で個体数もより少ない。

3. *Anostirus (Ipostirus) daimio* (Lewis, 1894)

ダイミョウヒラタコメツキ

調査標本: 2♀♀, 29-VI-2008.

青森県では各地の山林に広く分布しており、成虫はカエデやサワフタギなどの花に飛来している。また、大平・下山(1990)は青森県追良瀬でエゾニユウの花に飛来した個体を記録している。

4. *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894)

ドウガネヒラタコメツキ

調査標本: 1♀, 29-VI-2008.

青森県から九州にかけての各地の山林に広く分布する種である。近くの名久井岳からは大平・山内(2007)が記録している。

5. *Limonijs eximus* (Lewis, 1894)

ムラサキヒメカネコメツキ (Fig. 2, B)

調査標本: 1♂1♀, 9-VI-2008.

体長は6~7mm内外で、上翅が赤紫色の鈍い金属光沢を有する美麗種である。本州から九州の各地の広葉雑木林に分布しているが、個体数は多くない。尾崎(1995)によれば、青森県ではサクラ類、ミズナラ、コナラ、ケヤキ、ハルニレ、クリなどをスウィーピングして見出されるとしている。また、大平・山内(2006)は屏風山のベンゼ沼でFITを設置して見出している。ここでは主として5月から6月にかけて発生している。

6. *Limoniscus yamato* (Kishii, 1998)

ヤマトカネコメツキ

調査標本: 1♂, 9-VII-2008.

古い記録でニホンカネコメツキ(*L. niponensis*)として青森県から記録されているのは、上記の種である。ニ

1) 青森県立郷土館三八地方自然調査, 青森県産昆虫類の分布に関する研究(60)

2) 自然科学研究機構・生理学研究部 名誉技官(〒444-3511 岡崎市舞木町狐山6-4)

3) 青森県立郷土館 副参事(〒030-0802 青森市本町2-8-14)

ホンカネコメツキの原産地は北海道の渡島半島のJunsai (尊菜沼) で、本州産はこれとは別種であるとされたのがその主な理由である。これについては再検討の余地が若干あるように思われるが、ここでは上記の学名で記録するにとどめる。青森県産の雄成虫の形態の一部は大平・山内 (2001) が報告している。

7. *Athousius humeralis* (Miwa, 1927)

カタモンホソコメツキ (Fig. 2, A)

調査標本：1♂, 20-VII-2008.

十和田原産の種である。体長は9 mm 内外で、体色には黒色から暗褐色まで変異があるが、青森県産は一般に黒色～黒褐色で鈍い金属光沢を有し、翅底部は暗褐色を呈する。現在では本州、四国、九州の各地に広く分布することが知られている。青森県産の詳しい形態は大平・下山 (1990) (Fig. 4 の図版は本種であるが、図版説明はFig. 3 が正しい) が示している。成虫は山林の花上で見出されることが多いようである。

8. *Parathous comes comes* (Lewis, 1894)

チャイロツヤハダコメツキ (Fig. 3 A-J)

調査標本：3♂♂2♀♀, 20-VII-2008.

北海道の札幌原産の種であるが、現在では九州まで広

く分布が知られている広葉樹林性の種である。北海道産の成虫の形態は大平 (1996) が報告している。地域により体色や成虫の形態に変異が見られるので、亜種や変種も記載されているが、分類上の整理がまだできていないので、ここでは従来の見解に従って北海道産の亜種として記録するにとどめる。青森県産の個体については、大平・山内 (1999) が八甲田赤倉産の形態を記録しているが、ここに示した階上岳産の個体の一般形態も赤倉産とほぼ一致しているが、雄交尾器の末端部の形態 (Fig. 3, D, E ↑, F ↑) や前胸背板上の点刻の分布密度 (Fig. 3, H) や後角側縁の湾曲 (Fig. 3, G ↑) や頭部の前頭横隆縁の湾曲 (Fig. 3, B ↑) などに同一地域でも若干の変異が見られるので、ここにその変異の若干の例を示した。

9. *Stenagostus umbratilis* (Lewis, 1894)

オオツヤハダコメツキ

調査標本：1♂, 20-VII-2008.

北海道から九州にかけて広く分布する広葉樹林性の種である。成虫は灯火によく飛来するので、そこで見出されることが多い。幼虫は朽ち木の樹皮下に生息している。また、本種は離島にも広く分布しており、北海道 (焼尻島, 奥尻島), 本州 (佐渡島, 隠岐島, 御蔵島, 八丈島), 九州 (対馬, 五島列島, 屋久島) などからも知られている。

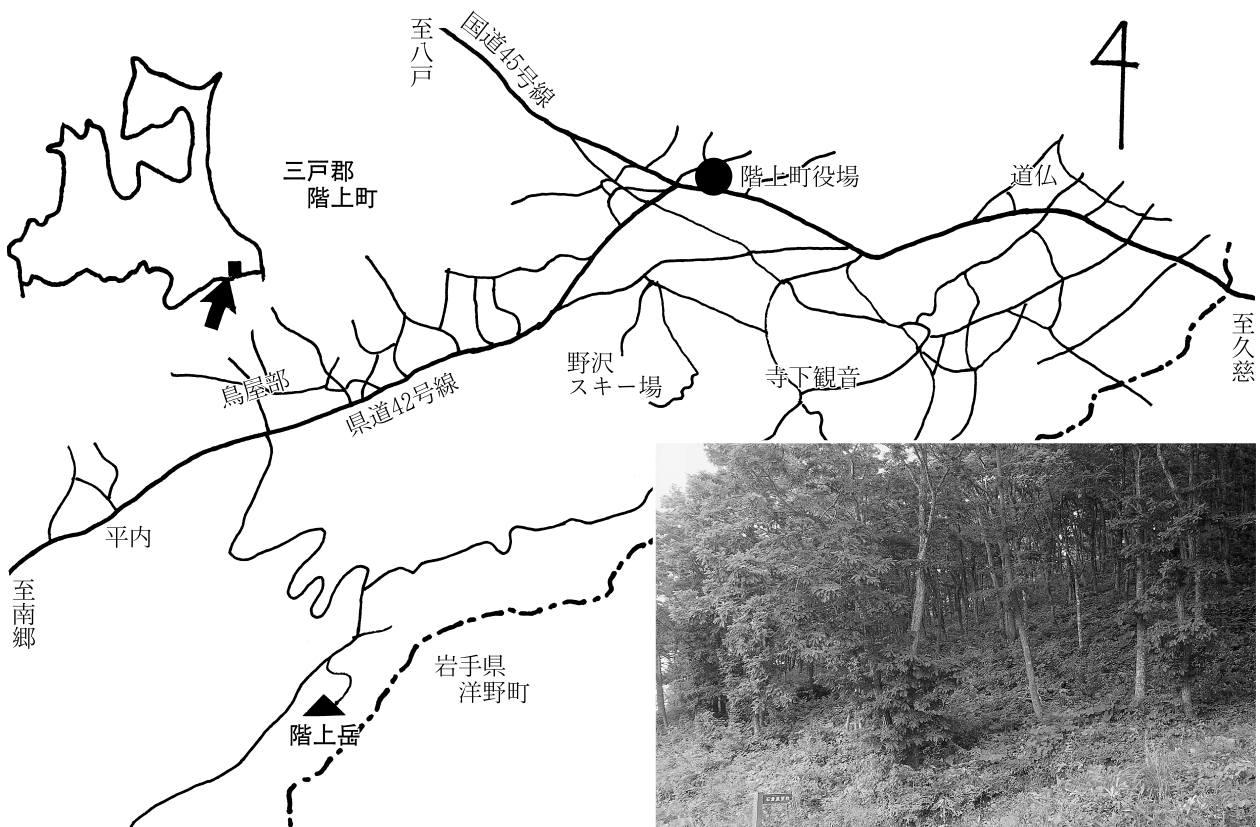


Fig. 1. Map of Mt.Hashikami-dake and its vicinities in Aomori Prefecture used in this study.

10. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus*

(Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ

調査標本：10♂♂2♀♀, 20-VII-2008.

本州から九州には広く分布しているよく知られている種である。幼虫は土壤中に分布している。成虫の体形には地域変異が見られ、一般に東北地方に見られる個体は小形のものが多い。これは寒冷地では土壤中の幼虫の成育に影響を与えているためと思われる。

11. *Hemicrepidius (Medakathous) jactatus jactatus*

(Lewis, 1894) メダカツヤハダコメツキ

調査標本：1♂, 20-VII-2008.

雑木林性で、本州から九州（福岡県）あたりまでの雑木林で分布が記録されている。個体数は前種に比して多くなく、とくに雌は一般の採集では少ない。これについて、尾崎（1995）は雌雄の生態が異なり、雌は地表の近い場所に生息しているために、目につきにくいためではないかと推測している。青森県産の雌雄の成虫の詳しい形態は大平・山内（1994）が報告している。

12. *Ampedus (Ampedus) aureopilosus aureopilosus*

Kishii, 1966 ケブカクロコメツキ

調査標本：1♂, 9-VI-2008; 1♀, 9-VII-2008.

体長は9mm内外、体は黒色で光沢を有する。京都葦原の原産であるが、本州の中部以北の山岳地帯には広く分布している。青森県四角岳産の雌雄の成虫の形態は大平・山内（2007）が報告している。

13. *Ectinus puberulus* (Miwa, 1928)

キンケオオカバイロコメツキ (Fig. 2, C)

調査標本：1♀, 9-VI-2008.

北海道（札幌）と本州（岩手）からの個体に基づいて新種として記載された12~14mm内外の黒色をした大形の種である。寒地系の種で、北海道、本州、四国の山岳地帯のブナやミズナラの広葉樹林帯に分布している。青森県産の雌雄の成虫の詳しい形態は大平・尾崎（1998）が報告している。

14. *Ectinus nipponensis* Kishii, 1979

ニホンカバイロコメツキ

調査標本：2♀♀, 29-VI-2008.

青森県産の個体については、古い記録ではムネナガカバイロコメツキ (*E. longicollis*) として記録されてきたが、最近では上記の学名で記録されることが多い。青森県の個体については大平・下山（1988）や大平・山内（1998）などが報告したように、関東地方~長野県~北陸地方の山岳地に分布しているものと上翅の褐色の色彩など一見相違するよう見られるが、形態上からの明確な識別は簡単ではなく、地域変異か亜種程度の関係にあるのではないかとと思われるが、さらに検討が必要なので、

ここでは上記種として記録するにとどめる。

15. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)

カバイロコメツキ

調査標本：1♂, 9-VI-2008; 1♂, 29-VI-2008.

青森県原産であるが、北海道から九州までの各地に広く分布している種である。本種の上翅の褐色の色彩は本州の近畿地方あたりから西部地域産では黒色を呈する。幼虫は土壤中に生息していて、植物の根茎を加害すると云われており、山地帯の農耕地や牧草地に多い。

16. *Dalopius naomii* Kishii, 1981 ナオミヒメコメツキ

調査標本：1♂, 9-VII-2008.

主として本州の中部地方から青森県にかけて分布が知られている種である。青森県からは尾崎（1995）が黒石市沖浦から最初に記録、次いで大平・山内（1996）が岩木山赤倉沢から報告している。岩手県産の成虫の詳しい形態は大平・千葉（1997）が報告している。体長は7mm内外で暗褐色を呈し、上翅には縦斑を生じない。また、雄交尾器の中央突起は著しく幅広く、特徴があるので近似種との識別は容易である。

17. *Glyphonyx illepidius* Candèze, 1873

クチボソコメツキ

調査標本：1♀, 9-VII-2008.

本州から九州にかけて分布が知られている体長5~6mm内外で黒色をした種である。幼虫が湿地状の土壤中に生息するので、一般に河川沿いや湿地周辺に多く、集団で生息していることが多いが、東北地方からの記録は少なく、個体数も少ないようである。

18. *Parasilesis musculus musculus* Candèze, 1873

クチブトコメツキ

調査標本：58exs., 9-VII-2008; 120exs., 20-VII-2008; 2exs., 29-VI-2008.

各地の雑木林に普通の種である。幼虫は湿潤地の土壤中に生息するため、湿潤地の畑地や牧草地周辺に多い。また、一部の地域では幼虫が農作物の根茎に喰入るので、害虫として扱われている。青森県産の本種の成虫の上翅は褐色と黒色を呈する個体が混生しているが、ここでは180個体の内約40%が褐色であり、岩木山あたりの記録と大差がなかった。

19. *Melanotus (Melanotus) senilis senilis* Candèze, 1865

クロクシコメツキ

調査標本：1♂, 20-VII-2008.

各地に広く分布する種で、農耕地や牧草地周辺に多い。農耕地で幼虫が馬鈴薯などの球根に喰入り穴をあけるは本種の幼虫である。

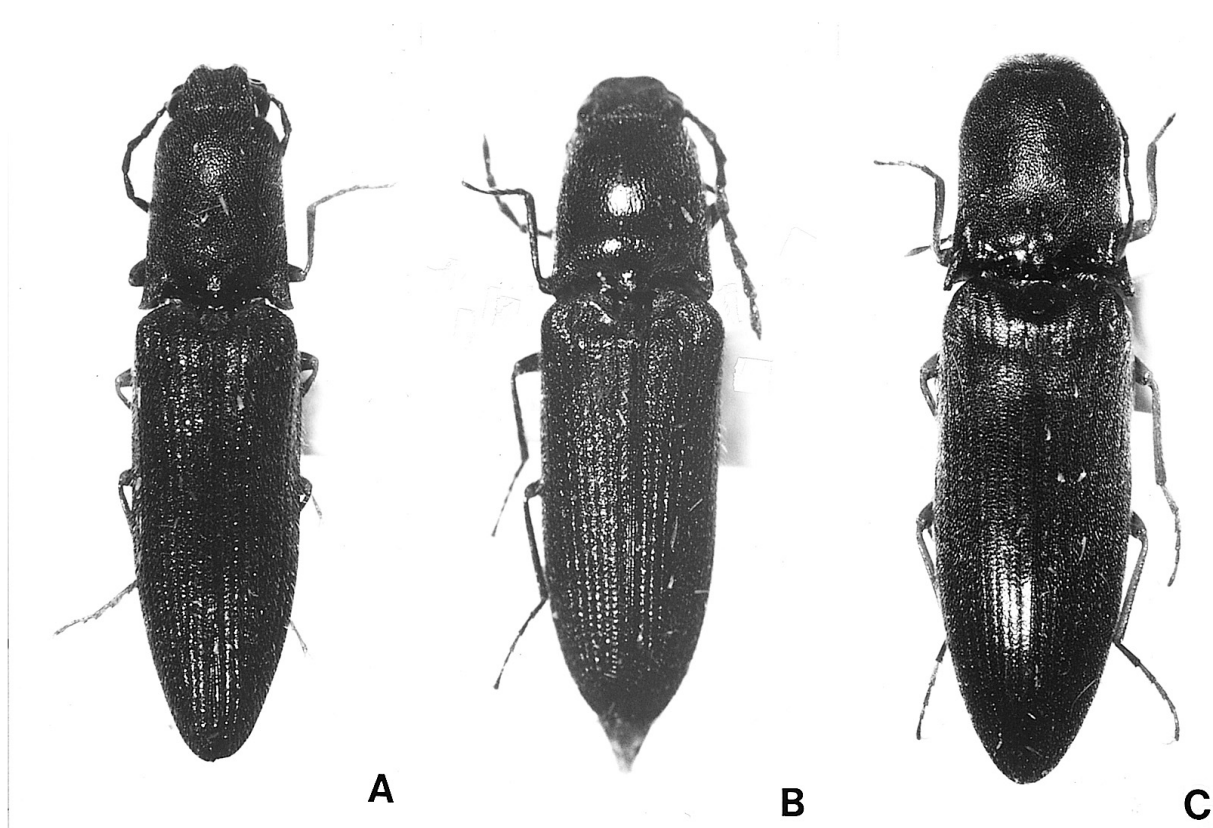


Fig. 2. A, *Athousius humeralis* (カタモンホソコメツキ), ♂, body length 12 mm; B, *Limonius exumus* (ムラサキカネコメツキ), ♂, body length 6 mm; C, *Ectinus puberulus* (キンケオオカバイロコメツキ), ♀, body length, 12 mm.

20. *Melanotus (Spheniscosomus) japonicus* Ôhira, 1974
ハネナガオオクシコメツキ

調査標本：1♂, 29-VI-2008; 3♂♂2♀♀, 9-VII-2008.
北海道の渡島半島から九州の北部地域にかけて分布が知られている山林性の種である。青森県産の成虫の形態は大平・山内 (1993) が三戸町産の個体を報告している。

21. *Platynychus nothus* (Candèze, 1865)

オオハナコメツキ

調査標本：1ex., 29-VI-2008; 13exs., 9-VII-2008; 1ex., 20-VII-2008.

北海道から九州にかけて広く分布する、よく知られている種である。

引用文献

大平仁夫, 1996. 北海道とその周辺のコメツキムシ (XIII). *jezoensis*, (23) : 67-73.

大平仁夫・千葉武勝, 1997. 分布上興味ある岩手県産コメツキムシ 2 種の記録. 岩手虫乃会会報特別号, 1 : 114-118.

大平仁夫・中村七三, 1970. 岩手県産鞘翅目 (仮目録), 1-36.

大平仁夫・尾崎俊寛, 1998. キンケオオカバイロコメツキの分布・形態について. *Celastrina*, (33) : 25-28.

大平仁夫・下山健作, 1988. 青森県に産するニホンカバイロコメツキについて. 青森県立郷土館調査研究年報, (22) : 51-59.

———・———, 1990. 青森県のコメツキムシ若干種について (II). 同上, (14) : 61-75.

———・———, 1993. 同上 (IV). 同上 (17) : 159-168.

大平仁夫・山内 智, 1994. 岩木山のコメツキムシ類について. 同上, (18) : 77-90.

———・———, 1996. 同上 (2). 同上, (20) : 67-79.

———・———, 1998. 八甲田山のコメツキムシ類について (II). 同上, (22) : 51-67.

———・———, 1999. 同上 (III). 同上, (23) : 51-58.

———・———, 2001. 青森県小泊半島のコメツキムシ類について. 同上, (25) : 77-85.

———・———, 2007. 青森県四角岳とその周辺のコメツキムシ類について. 同上, (31) : 25-32.

尾崎俊寛, 1995. 青森県に分布するコメツキムシについて (1). *Celastrina*, (30) : 37-72.

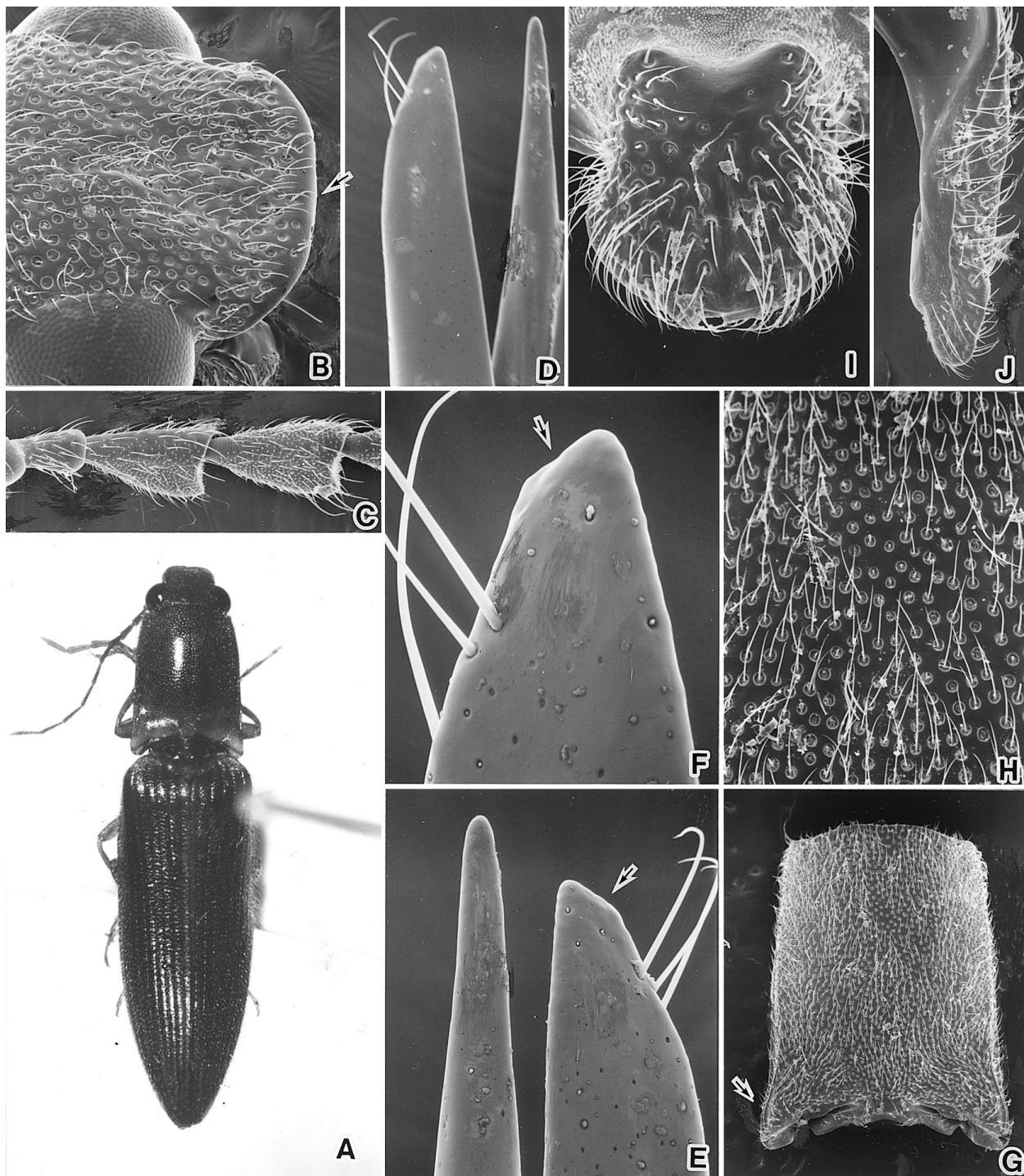


Fig.3, A-J, *Parathous comes comes* (チャイロツヤハダコメツキ), ♂. A, body length 11mm; B, head, dorso-lateral aspect; C, 2nd to 4th basal segments of left antenna; D, E, F, apical portion of male genitalia, dorsal aspect; G, pronotum, dorsal aspect; H, some punctures on the disc of pronotum; I, scutellum; J, prosternal process, lateral aspect.